

葉栗連区 地域づくり協議会だより

令和6年2月(88号)



葉栗 HP

発行日：令和6年2月1日 発行者：葉栗連区地域づくり協議会
一宮市大毛字南出120番地（葉栗出張所内） 電話：28-9001
ホームページ：<https://138haguri.org>（スマホからは上記 QR コードより）

葉栗連区の人口と世帯数 <2023.12.1 現在> 人口 16,212 人（男 7,933 人 女 8,279 人） 世帯数 6,888 世帯

☆ もしもの時の備えは大丈夫？ プレ防災訓練実施 ☆

12月9日(土)、葉栗小学校屋内運動場において、葉栗連区地域づくり協議会の安全安心部会が中心となってプレ防災訓練が行われました。いつ起きるかわからない災害に備えて防災倉庫の備品の確認、発電機の操作、簡易トイレや段ボールベッドの組み立てなど、実際の災害を想定して避難所開設準備を学びました。説明書がなくても組み立てができました。参加者は初めて使う備品の取り扱いに真剣に取り組んでいました。

能登地方で大きな地震が発生しています。今一度、水・食料・トイレ・防災用品などの準備・確認をしましょう！



発電機作動



投光器組立



簡易トイレ組立



簡易テント組立



段ボールベッド組立



簡易組立式トイレ組立

☆ 応急手当を覚えましょう！ 西山町内会 ☆

12月17日（日）、西山町内会では急変した傷病者を救命し、社会復帰させるために必要となる応急手当を学びました。

心肺蘇生の手順として、①反応を確認する。②助けを呼ぶ。③呼吸の確認をする。④胸骨圧迫をする。という一連の手順を参加者は真剣に取り組んでいました。

傷病者を見つけたときは、大きな声で応援を呼ぶとともに119番通報をする。119番通報をすると電話を通じて通信員が、やるべきことを教えてくれます。電話のスピーカー機能などを活用すれば通信員の口頭指導を受けながら胸骨圧迫を行うことができます。

今回の訓練ではその他に、簡易担架での搬送方法、AEDの取り扱い、消火器訓練などを行い、緊急事態に遭遇した時のために、常日頃から慌てず行動することの大切さを学ぶいい機会となりました。

西山町内会では毎年防災訓練を行っており、自助・共助の意識向上に取り組んでいます。



☆ 『Smile～つながる笑顔～』 138タワーパークイルミネーション ☆

138タワーパークでは『Smile～つながる笑顔～』をテーマとして、11月11日（土）～12月25日（月）の17：00～21：00にイルミネーションイベントが行われました。

園内13ヵ所には「平和」「声援」「奇跡」「喜び」などをイメージした30万球のイルミネーションが輝き、笑顔になれる様々なうれしい瞬間が各エリアで表現されていました。



☆ 年神様をお迎えする門松づくり 更屋敷 八劔神社 ☆

お正月には年神様がやってきます。年神様は特定の宗教の神様ではなく、その年の福や徳をつかさどる歳徳神（としとくじん）や穀物の神、先祖の霊などの複数の神様が一つにまとめられた民間信仰が伝わったとされています。その神様が家へ訪れてくるための目印が門松の役割です。

12月24日（日）、更屋敷の八劔神社では手作りの門松づくりが行われました。1週間前、138タワーパーク東の竹林から竹を譲り受けることから始まり、松、梅、南天、葉ボタン、杉皮などを地元から調達し、氏子の皆さんが力を合わせ門松を完成させました。

年々、手作りの門松を伝承する人が少なくなってきました。更屋敷八劔神社では今でも手作り門松にこだわり、技術を継承しています。

竹は節の部分から斜めにそぐと、切り口が笑った顔に見えるため、縁起が良いとされています。この「そぎ」の作業は大変難しく、地元の工務店にお願いをしています。これからも良き伝統を継承していただきたいと思います。



完成した門松



竹林から竹を切り出す



竹を斜めにそぐ



門松づくり



杉皮に縄を7・5・3重に巻く

*** ** ** ** **

地域づくり協議会では、葉栗連区のホームページを開設しています。身近な話題や各種の行事、講座の案内、地域の出来事などを見ることが出来ます。スマホから右のコードを読み込んでください。

葉栗 HP→



歴史探訪 小学校編①

記憶に残るアノ樹は今？！

「♪～春は さくらの花さくところ これぞわが里 明けゆく空に♪～」

この歌（詩）を聞いて「あァー」と気づかれる方も多いことでしょう。答えは葉栗小学校の校歌ですよね。校歌は大正 15 年に制定され、在学中は元気な声で歌い、聞けばその時代の友達や出来事を思い出す方も多いでしょう。

その小学校の風景の中で一番に思い出すのは、運動場にあった大イチョウではないでしょうか。

春には新芽の緑、夏には深緑、秋には鮮やかな黄、冬はチョッピリさみしい枝ぶりを。

また、大イチョウに見守られながら、ハラハラした組体操や、児童と一緒に応援の家族も盛り上がった対抗リレーなど、当時の運動会の様子を思い出します。

さて、その大イチョウは、今は・・・？ ご存知ですか。学校内に樹が写りこんだ写真を見ると 1975 年に全景を映した航空写真には、すでにその存在感を示していました。他にも 1989 年ごろのイチョウの樹の日陰の中で写生大会の風景など、過去の歩みがなつかしく展示されています。

そして樹は平成元年に運動場内の南側に二つに分けて移植されました。現在、根元部分の樹は衰え半分が朽ちているようにも見えますが、昨年も立派に葉を繁らせていました。

イチョウの寿命は数百年とも数千年とも言われています。これからも頑張って地域の私たちの心に残る存在として、繁り続けてほしいと思いました。



現在のイチョウの木
手前の木と奥に見える細い木が移植の木です



航空写真



懐かしい運動会風景